

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
東京臨海広域防災公園		（指定管理者名）西武造園株式会社 （団体の概要）西武鉄道(株)をはじめとする様々な企業が属する「西武グループ企業」の一員であり、関東圏を中心に全国各地にある81箇所479施設(令和3年3月末現在)の都市公園等の管理運営に携わっている。			
指定期間					
R1.2.1～R5.1.R					
2 施設名		3 収支（単位：千円）			
東京臨海広域防災公園		項目	金額	公園別支出額	
		収入計	56,952	東京臨海広域防災公園:56,952	
		内 指定管理料	56,952		
		内 利用料金	0		
		支出計	56,952		
収支差	0				
4 管理運営の概要					
<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、大型持込イベントや例年実施している「ぼうさいモーターショー」や「熱気球の搭乗体験イベント」等の園地で人気のあるイベントが中止もしくは延期となってしまったため、令和2年度は園地で快適に過ごしてもらうための環境整備に注力した。次年度のガーデニング講座にもつながる、四季を通じて楽しめる大規模花壇の造成や芝生環境の品質向上のため導入した自動芝刈機、また園地で老朽化が始まっていた案内看板の再塗装等といったより安全で快適な園地となるような整備を実施した。</p> <p>人を集めるイベントがなかなか実施できない中で、ぼうさいモーターショーの協力団体からの写真提供で実現した「はたらく車写真展」や公園で初めてのオンラインイベント「ペット防災」を開催し、コロナ禍の中でのイベントの在り方について模索した。</p> <p>また、コロナ禍の影響で園内の利用状況が大きく変化したことから「園内の利用ルールの再整備」を国営公園スタッフと共に実施した他、東日本大震災から10年目を迎えた今、防災訓練の見直しを行い、発災時の確認・報告に必要な道具類や報告内容に関してスタッフ全員で再確認を行った。</p>					
5 管理状況（維持管理）					
<p>【ボランティア活動の場としての花壇整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都立公園と国営公園の境界部に新たな大規模花壇を造成した。宿根草と一年草を配置し、一年を通して植物の変化を楽しむことができ、飽きさせることがない花壇へのリニューアルをガーデニング専門家を依頼した。次年度以降はこの花壇を会場にガーデニング講座を開催予定であり、地域住民の緑を通じたコミュニケーションの場として活用していく。 <p>【安心・安全な公園緑地空間の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都立公園と国営公園にまたがるヘリポート付近の芝生広場に自動芝刈機を導入した。芝生広場に計4箇所のチャージステーションを設置し、4台の自動芝刈機を稼働させた。昼間に充電し、夜間の閉園した空間で稼働することから、飛び石等の事故の低減の他、作業により芝生広場を使用できない等の不便さを解消することが可能となった。また、毎夜稼働することから、常に一定の品質の芝生環境を提供することが可能となり、都立公園と国営公園の一体管理を実現することができた。 					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
東京臨海広域防災公園	4.4	4.2	4.5	4.3	4.5
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
東京臨海広域防災公園	220,008	新型コロナウイルスの影響により、大型の持込イベント等が中止・延期となり、来園者数は大幅に減少した。しかし、天候が良い日には土日を中心に家族連れやスポーツレクリエーションを目的とした団体の園地の利用が増加している。			
合計	220,008				

都立東京臨海広域防災公園

＜東京臨海広域防災公園の基本的な考え方＞

- ①“都市の魅力を高める”公園づくり
- ②“高度防災都市を支える”公園づくり
- ③“生命を育む環境を次世代に継承する”公園づくり
- ④“豊かな生活の核となる”公園づくり

⇒魅力的な公園づくりを推進！



1. ボランティア活動の場としての花壇整備

●都立公園と国営公園の境界部に新たに大規模花壇を創出！

宿根草と一年草を織り交ぜた一年を通して、植物の変化を楽しめる花壇を目指して、ガーデニングの専門家に植栽デザインを依頼。園路を敷設し、様々な角度から植物を楽しめる空間を演出した。次年度以降にこの花壇を会場としたガーデニング講座を開催予定。今後は地域住民の緑を通じたコミュニケーションの場に育てる。

《つくる》

緑のコミュニティを育むための環境・基盤づくり

令和2年度
実施！！

《育てる》

公園と緑に携わる人を育てる講座を開催

《魅せる》

地域の人に公園の四季を楽しんでもらう

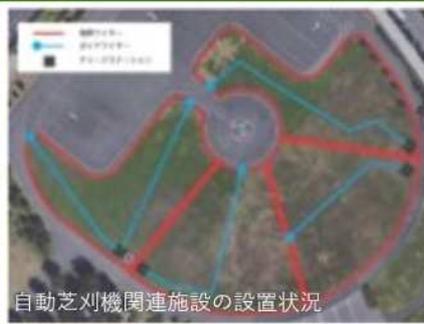


宿根草と一年草のナチュラルスティック花壇の創出！

2. 安心・安全な公園緑地空間の提供



自動芝刈機運用状況



自動芝刈機関連施設の設置状況

●自動芝刈機の導入

ヘリポート付近の芝生広場に計4台の自動芝刈機を新たに導入！

国営公園と都立公園で一体となる植物管理を実現した。

毎夜の稼働により、芝生の品質向上の他、昼間の芝刈作業の低減と安全性の確保が可能となった。



●園地看板の再塗装

園地の案内看板の塗装に白い粉がふいてきていたため、再塗装を実施。耐久性のある塗料剤を使用することで、長寿命化と視認性の向上につながった。

都立東京臨海広域防災公園

3. コロナ禍における防災の普及啓発

●ぼうさいモーターショーで培ったつながりを生かした「はたらく車 写真展」開催！！

コロナ禍の影響で人を集めるイベントは開催できなかったが、今までぼうさいモーターショーで協力していただいた団体に写真の提供をお願いし、写真展が実現した。



●オンライン「ペット防災」イベントを初開催！！

Zoomを使ってペットの防災にまつわる話を講師の先生と公園の防災士スタッフとの対談形式で実施。チャット機能を使い、リアルタイムで質問・相談を受け付け、活発な相互コミュニケーションが生まれた。



公園初のオンラインイベント！PCモニター

4. 園内の利用ルールづくり



園地での利用指導状況

●園内の利用ルールの再整備の実施

開園10年を迎え、公園の周辺環境が変化し、また新型コロナウイルスの影響もあり、特にこの1年間で園地の利用状況が様変わりしたことを受け、園地の利用ルールの再整備を行った。

スタッフ全員で会議を行い、利用指導の際どのような場面で困っているか集約し、関係団体と調整を行い、利用ルールと周知方法の再確認を行った。

5. 初動対応ボックスの準備と各種避難訓練



●東日本大震災10年目を迎え、防災訓練を見直し

閉園時を想定した初動対応訓練を実施。緊急災害現地対策本部に場面転換する際に行う報告事項に必要な道具類の整備と報告内容の確認をスタッフ全員で行った。その他、各種防災訓練を定期的実施した。

6. 園地を楽しむ！セルフプログラム



●コロナ禍でも園地を楽しんでもらうプログラム

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止せざるを得なかった「移動動物園」の代わりに動物に関する写真を使ったクイズや園内の植物に関するスタンプラリーを開催！

7. 利便性の向上



●野外卓増設と周辺環境整備

増額予算を使用し、野外卓の5台の増設を実施した。また、ベンチ下の芝生の張替えを行い、園地の利便性向上に寄与した。